

東北海区沿岸水温予報(2016年)

海域	経過 (4~6月)	現況(7月上旬~ 7月下旬)	見通し (8~9月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水総研発表)	<p>【4月】</p> <p><定地水温> 「やや高い」であった。</p> <p><日本海定線観測> 対馬暖流の各層最高水温は、0m層、50m層、100m層共に「はなはだ高い」であった。</p> <p>【5月】</p> <p><定地水温> 「平年並み」から「やや高い」であった。</p> <p><日本海定線観測> 対馬暖流の各層最高水温は、0m層で「平年並み」、50m層で「やや高い」、100m層で「かなり高い」であった。</p> <p>【6月】</p> <p><定地水温> 「平年並み」から「やや高い」であった。</p> <p><太平洋定線観測> 津軽暖流域の0m層最高水温は、0m層で「平年並み」、50m層及び100層で「やや高い」であった。</p> <p><日本海定線観測> 対馬暖流の各層最高水温は、0m層及び50m層で「やや高い」、100m層で「はなはだ高い」であった。</p>	<p><定地水温> 「平年並み」で推移。</p> <p><定線観測> 太平洋及び日本海共に観測なし。</p>	<p>「平年並み」～「やや高い」で推移する。</p>	<p>6月の太平洋定地水温、太平洋海観測、日本海定線観測の0m層及び50m層は「平年並み」～「やや高め」で推移しており、FRA-ROMSの予測でも、同様の傾向で持続されることから。</p>	<p>特になし</p>
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	<p>(観測日:4月5~6日)</p> <p><表面水温> 10海里以内は8~9℃台であり、平年よりやや高め~高めであった。10海里以東では、全域で平年よりやや高め~高めであった。</p> <p><100m深水温> 県中部~県南部沖の20海里以東で平年よりやや高め~高めであり、特に県中部沖の40~50海里付近では4℃以上高めであった。</p> <p>(観測日:4月25~26日)</p> <p><表面水温> 10海里以内は9~10℃台であり、平年並~やや高めであった。10海里以東では、県中部沖で平年よりやや高めのほかは、概ね平年並であった。</p> <p><100m深水温> 県北部~県中部沖の20海里以東で平年よりやや高め~高めであった。</p> <p>(観測日:5月30日~6月3日)</p> <p><表面水温> 10海里以内は11~15℃台であり、県中部以南でやや高め~高めであった。10海里以東では、県北部沖30海里以東で平年並~やや低め、県中部以南の20海里以東で平年よりやや高め~高めであった。</p> <p><100m深水温> 県中部以南の20海里以東でやや高め~極めて高めであった。特にトクヶ崎沖50海里から椿島沖50海里にかけては平年より9℃以上高めであった。</p>	<p>(観測日:6月27~30日)</p> <p><表面水温> 10海里以内は14~20℃台であり、県南部でやや高め~高めであった。10海里以東では県北部沖を除きやや高め~高めであった。</p> <p><100m深水温> ごく沿岸域で平年並みのほかはやや高め~極めて高めであった。特に県中部から県南部沖50海里付近では7℃以上高めであった。</p>	<p>8月上旬は100m深ではトクヶ崎沖40海里及び尾崎沖40海里で高めのほかは全域で概ねやや高めと予測。各0海里定点の10m深では全域でやや高めと予測された。</p>	<p>農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」において開発した水温経験的予測システムを用いて解析した。</p>	<p>6月上旬~下旬の県中南部沖50海里付近では、黒潮系暖水の波及により100m深水温が平年より7~9℃程度高めであった。</p> <p>5月のマダイ(定置網)の水揚げが好調に推移した。</p> <p>6月のブリ(定置網)の水揚げが好調に推移した。</p>
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	<p><4月></p> <p>【表面水温】 仙台湾は8~9℃台で平年並、金華山沖は8~11℃台で平年より、1~5℃高めであった。</p> <p>【100m深水温】 7~8℃台で、平年より1~3℃高めであった。</p> <p><5月></p> <p>【表面水温】 仙台湾は11~12℃台で平年並、金華山沖は11~15℃台で平年より1~5℃高めであった。</p> <p>【100m深水温】 8~11℃台で、平年より2~4℃高めであった。</p> <p><6月></p> <p>【表面水温】 仙台湾は12~17℃台で湾奥は平年より低め、湾口では平年並であった。金華山沖は15~20℃台で平年並から5℃高めで沖台ほど平年より高めであった。</p>	<p><7月上旬></p> <p>【表面水温】 仙台湾から142° 50' Eにかけて18~22℃台。仙台湾で平年並から2℃高め、金華山沖は2~4℃高めとなっている。</p> <p>【100m深水温】 10~12℃となっており、平年より1~5℃高く、38° 50' Nライン(気仙沼沖)の142° 10' E以東では3~5℃高め、38° 30' Nライン(雄勝沖)の142° 10' E以東では3~4℃高め、38° Nライン(巨理沖)の142° 30' E以東では3℃高めとなっている。</p>	<p><8月></p> <p>【100m深水温】 142° 10' E以西は平年並で推移する。142° 10' E以東はやや高めから高めで推移する。</p> <p><9月></p> <p>【100m深水温】 142° 10' E以西は平年並で推移する。142° 10' E以東はやや高めで推移する。</p>	<p>水温経験的予測システムの主成分スコア自己回帰モデルによる予測</p>	<p>一昨年(年計66トン)、昨年(年計505トン)に続くカザミの水揚げ増(6月水揚げ前年比162%、60トン)。</p>

	<p>【100m深水温】 9～16℃台で平年より1～8℃高めで、表面水温同様、沖合ほど平年より高く、特に142°30' E以東では6～8℃高めであった。</p>				
<p>常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試 発表)</p>	<p>【4月】 <表面水温> 県北:沿岸が「やや高め」、沖合が「極めて高め」 県中:沿岸、沖合ともに「平年並み」 県南:沿岸が「平年並み」、沖合が「やや高め」 <100m深水温> 県北:沿岸が「やや高め」、沖合が「高め」 県中:沿岸、沖合ともに「平年並み」 県南:沿岸、沖合ともに「平年並み」 【5月】 <表面水温> 県北:沿岸が「平年並み」、沖合が「高め」 県中:沿岸が「やや高め」、沖合が「極めて高め」 県南:沿岸、沖合ともに「やや高め」 <100m深水温> 県北:沿岸が「やや高め」、沖合が「極めて高め」 県中:沿岸が「やや高め」、沖合が「極めて高め」 県南:沿岸が「やや高め」、沖合が「平年並み」 【6月】 <表面水温> 県北:沿岸が「平年並み」、沖合が「やや高め」 県中:沿岸が「平年並み」、沖合が「やや高め」 県南:沿岸、沖合ともに「やや高め」 <100m深水温> 県北:沿岸が「やや高め」、沖合が「高め」 県中:沿岸が「やや高め」、沖合が「極めて高め」 県南:沿岸、沖合ともに「極めて高め」 ※ 県北:37-50N 定線 県中:37-25N 定線 県南:37-00N 定線 沿岸:142-00E 以西、沖合:142-00E より東側</p>	<p>【7月】 <表面水温> 県北:沿岸が「極めて高め」、沖合は「高め」 県中:沿岸が「高め」、沖合が「極めて高め」 県南:沿岸、沖合ともに「極めて高め」 <100m深水温> 県北:沿岸、沖合ともに「やや高め」 県中:沿岸、沖合ともに「やや高め」 県南:沿岸が「平年並み」、沖合は「高め」 上～中旬は沖合の北上暖水からの暖水波及が継続し、沿岸から沖合まで平年より高め基調で推移した。 下旬は黒潮縦断流が沖合を北上し、暖水波及が強まったため、沿岸から沖合まで昇温した。</p>	<p>【8～9月】 表面水温、100m深水温ともに高め基調で推移する。</p>	<p>気象庁の1ヶ月予報(7月20日発表)において、親潮南限位置は「41.5°N、146.5°E付近」、親潮の面積が平年よりかなり小さい見込み、黒潮流路は房総半島では離岸と接岸を繰り返すと予想されている。 FRA-ROMSによる9月中旬までの本県海域の海況は、表面、100m深ともに黒潮系暖水が広く波及すると見込まれている。 以上のことから、8～9月の表面水温、100m深水温はともに高め基調で推移すると予測した。</p>	<p>○コロナゴ船びき網(試験操業)は県北部で豊漁(3～4月) ○シラス船びき網(試験操業)は県南部で不漁(7月)</p>

<p>常磐南部～鹿島灘(茨城県沿岸; 茨城水試発表)</p>	<p>4月は、0～100m深の概ね全域で「平年並み～やや低め」であった。沿岸域では前月に引き続き冷水の影響がみられ、逆潮が観測された。</p> <p>5月は、表層では概ね「平年並み」となった。100m深でも概ね「平年並み」であったが、鹿島沖の一部で「やや低め」であった。また、沖からの暖水の影響により会瀬定線の沖合域では「やや高め」であった。</p> <p>6月は、会瀬定線では沖からの暖水波及の影響で「平年並み～高め」、犬吠埼定線では黒潮の影響により同様に「平年並み～高め」となった。一方、大洗～鹿島定線では概ね「平年並み」で、一部「やや低め」であった。</p>	<p>7月は、沖からの暖水および黒潮からの暖水の影響が引き続き残り、全域で「平年並み～やや高め」となった。特に、会瀬～大洗定線では「高め」となった観測点もみられた。</p>	<p>「平年並～やや高め」で推移する。</p>	<p>①気象庁6月24日発表の「関東甲信地方3か月予報」によると、8月～9月の茨城県の平均気温は「高め」(「低め」:20%)と予測されている(「低め」:20%)。</p> <p>②7月上旬に海洋観測で取得した水温を用いて自己回帰分析を実施した結果、本県沿岸域の水温は8、9、10月で「平年並～やや高め」となった。</p> <p>③FRA-ROMSによる推定によると、8月上旬、9月上旬の水温は、0m・100mともに「平年並～やや高め」の予測である。</p> <p>④以上より、今後の沿岸水温は「平年並～やや高め」で推移すると予測した。</p>	<p>①北部太平洋まき網による1～4月のサバ類の漁獲量は13万トンを超え、過去20年で最高の漁獲量であった。昨年を上回る好漁であったが、5月以降は平年を下回っており、低調である。</p> <p>②前年同様、大中型1そうまき網によるゴボウセグロを対象とした操業が皆無となっている。</p> <p>③5月、県内底曳船にタカアシガニの混獲があった。</p> <p>④北部太平洋まき網による1～6月のマイワシ水揚量(約87千トン)で、1999年(約92千トン)以来の豊漁となっている。</p> <p>⑤2016年6月下旬以降、大中型1そうまきあみ船で当月月上旬の水温は、0m・100mともに「平年並～やや高め」の予測である。これまで7月以降に当歳魚が漁獲の主体となることはあったものの、6月に当歳魚がまとまることは少なくとも平成以降では初めてである。</p>
--------------------------------	---	--	--------------------------------	---	--

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+3.1℃～	+3.7℃～	+5.8℃～	+5.7℃～	+4.8℃～	+6.1℃～
高い(7.5%)	+2.0～+3.0℃	+2.4～+3.6℃	+3.8～+5.7℃	+3.7～+5.6℃	+3.1～+4.7℃	+4.0～+6.0℃
やや高い(20%)	+0.8～+1.9℃	+1.0～+2.3℃	+1.5～+3.7℃	+1.5～+3.6℃	+1.2～+3.0℃	+1.6～+3.9℃
平年並(40%)	+0.7～-0.7℃	+0.9～-0.9℃	+1.4～-1.4℃	+1.4～-1.4℃	+1.1～-1.1℃	+1.5～-1.5℃
やや低い(20%)	-0.8～-1.9℃	-1.0～-2.3℃	-1.5～-3.7℃	-1.5～-3.6℃	-1.2～-3.0℃	-1.6～-3.9℃
低い(7.5%)	-2.0～-3.0℃	-2.4～-3.6℃	-3.8～-5.7℃	-3.7～-5.6℃	-3.1～-4.7℃	-4.0～-6.0℃
極めて低い(2.5%)	-3.1℃～	-3.7℃～	-5.8℃～	-5.7℃～	-4.8℃～	-6.1℃～